知財業務におけるGemini 4 Argonの活用可能性と導入設計

Gemini 4 Argonの特長と知財業務への適合性

大量資料の横断分析と証拠付き中間成果物の作成に最適





100万トークン超のコンテキストとPDF・動画等のネイティブ解析により調査・要約を大幅に高速化します。

一次スクリーニングが得意な一方、法的最終判定の単独処理は不可



クレームチャートや先行技術調査に強い一方、FTO最終判断や出願確定の自動化は推奨されません。



高度な法務ベンチマーク性能と既知の限界（知識カットオフ等）





法務能力指標で高い数値を示しますが、最新の権利状態把握には外部DBとのリアルタイム連携が必要です。

成功のための導入原則とリスク管理体制

「RAG-first, evidence-first, human-final」の徹底



根拠資料検索・引用



モデル記憶に頼らず



最終判断：有資格者による実施

不可逆リスクに応じた4段階の人間レビュー（Human-in-the-Loop）



外部送信・書き込み権限の分離とセキュリティ統制

自動化範囲

検索・分析処理のみを自動化

検索・分析のみを自動化し、特許庁への提出や契約署名には人間承認の必須ゲートを設置します。





人間承認必須ゲート

特許庁提出・契約署名

検索・分析のみを自動化し、特許庁への提出や契約署名には人間承認の必須ゲートを設置します。

Gemini Notebook